

はなの輪

広島市植物公園植物友の会

2025年10月-12月 通巻第185号



園長のおすすめ 2024年10月7日号より

ヤマナシ *Pyrus pyrifolia* (Burm.f.) Nakai

バラ科ナシ属の落葉高木。ニホンヤマナシともよばれ、和ナシの元となりました。樹高は10m弱、葉は10cm程度で互生します。花は白色で4～5月に咲き、花弁は5個。収穫期は9～10月で5cm程度の実になります。果肉は白色で、生食には向かないとする説もあり、食べられないことはないものの、繊維が残ります。

ナシには、中国ナシ、和ナシ、洋ナシとあり、中国ナシは流通がごく少量のため、あまり目にしません。さらに、和ナシは青ナシと赤ナシに分けられ、青ナシは「20世紀」ナシが有名で、赤ナシは「幸水」、「豊水」、最近は「新甘泉(しんかんせん)」、「あきあかり(直販向き)」などが名をえています。洋ナシは縦長の形で、11月頃、出回ります。

(園内位置：芝生広場奥)

[写真・文 永井 親雄]



被爆80年特別企画展「被爆樹木」について

被爆80年の節目にあたり、当園では7月19日から「被爆樹木」をテーマにした特別企画展を開催し、関連イベントも実施しています。

今回はその内容についてご紹介します。

1 被爆樹木とは

「被爆樹木」とは、爆心地から概ね2km以内で被爆した樹木で、被爆当時のままそこにあるか、被爆後に移植されたことが確認できるものをいい、2025年(令和7年)4月1日現在、159本が広島市の被爆樹木リストに登録されています。

4月、桜が咲く頃に、被爆したソメイヨシノを訪ね歩きました。どの樹木も傷みながらも手を尽くして守られ、健気に花を咲かせており、私自身も大きな力をもらいました。



2 被爆樹木の特徴

被爆樹木には、いくつかの特徴がみられます。

- ①爆心地側には火傷跡や樹洞が多くみられる
- ②爆心地側は枝の数・根の張りが少ない
- ③爆心地側に傾く傾向がある

展示では詳しく紹介していますので、被爆樹木を観察する際の参考にしてください。また、現地の樹木には説明のプレートが付いているので、探すときの目印になります。



3 実物展示

今回の展示会では、実物資料の展示も行っています。例えば、爆心地から北東約1,700mに位置する饒津(にぎつ)神社にあった被爆クロマツの切り株を展示しています。このクロマツは、最後の1本が2003年(平成15年)に枯死し、切り株が大切に保存されてきました。その一部は調査・研究に利用され、被爆後数年間にわたる異常年輪の形成が確認されています。特に1945年(昭和20年)以降、爆心地側の年輪は極端に狭く、反対側は広いことがわかります。また、広島城にあった被爆ユーカリの切り枝も展示しており、うねるように変形した樹形がご覧いただけます。

4 世界へはばたく被爆樹木の種子

当園は、2012年(平成24年)12月に広島市の市民団体であるグリーン・レガシー・ヒロシマ(GLH)から協力依頼を受けて、海外に被爆樹木の種子を届けるお手伝いをしています。園内の冷蔵庫でイチョウウやクロガネモチなど11種類の被爆樹木の種子を保管し、必要に応じ植物防疫所で検査を行い、海外へ発送しています。これまでイギリス、アメリカなど40か国へ送り、その種子は「平和を伝える使者」として、各地で育てられています。会場では種子や苗の実物も展示しています。

2024年(令和6年)に核兵器廃絶を訴えてきた日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞し、同年12月9日にはノルウェー・オスロ大学自然史博物館で被爆樹木の種子を植えるセレモニーが行われました。ここで植えられたイチョウの種子も当園から旅立ったものです。

5 アート展 Hibakujumoku—the trees in a community - Kikyo 帰郷

ノーベル平和賞の授賞式が行われたノルウェーで、これまでに2回、被爆樹木をテーマにしたアート展が開催されました。これらの作品が今年11月に広島へ「帰郷」し、当園にて展示される予定です。

6 さいごに

植物友の会では、11月に野外観察会として、被爆樹木の観察を行います。私たち広島市民の身近にある被爆樹木。あらためて観察することで、広島で生きる私たちが次の世代へ伝えていくべき「平和」について、考えてみませんか。

2025年10月～12月 展示会・イベント案内

秋のグリーンフェア期間中 [10/25～11/3] は入園料無料（駐車場は有料）

10/25（土）
～ 11/3（月祝）

秋のグリーン フェア2025

花と緑の講習会、コンサートやフリーマーケットなど家族で気軽に秋の植物に親しんでいただけるイベントが盛りだくさんです！！

11/30（日）

広島市植物公園 写生大会

秋の植物公園で植物の絵を描きませんか？
先着300名の受付で、審査（賞品あり）と受賞作品の巡回展示を予定しています。雨天中止。

11/22, 29
12/6, 13, 20
（毎週土曜日）

花と光のページェント （夜間開園）

キャンドルやイルミネーションで園内を華やかに彩るとともに植物のライトアップも行い、幻想的な雰囲気演出します。展示温室のクリスマスムード満点の装飾も必見です。クリスマスコンサートもあります。

展示会のご案内

展示会の内容は、一部変更になる場合があります。
最新情報はホームページ・電話等でご確認ください。

新	被爆80年特別企画展「被爆樹木」 後援：広島市、公益社団法人日本植物園協会	7/19～10/13	展示資料館
	秋の薬用植物とハーブ展	9/6～10/5	展示温室
	サボテン・多肉植物展 共催：広島カクタスクラブ	10/11～10/19	展示温室
	秋の山野草展 共催：広島山草同好会	10/15～10/21	屋外展示場
	秋の小品盆栽展 共催：広島小品盆栽会	10/18～10/21	展示資料館
	野生きのこ展 共催：広島きのこ同好会	10/25～11/3	展示資料館
	ハンギングバスケット作品展 共催：日本ハンギングバスケット協会広島支部	10/25～11/3	大温室前
	秋の洋ラン展 協力：広島洋蘭倶楽部他	10/25～11/3	展示温室
	キク展	10/25～11/24	屋外展示場
新	ボタニカルガーデンズ～今坂庸二朗写真展	11/8～12/14	展示資料館
新	観覧会「アート展 Hibakujumoku—the trees in a community - Kikyo 帰郷」	11/8～11/30	園内
	寒蘭展 共催：広島和蘭会	11/15～11/24	展示温室
	クリスマス飾るフラワー展	11/29～12/25	展示温室
新	花を縫う～キルティングアート展 共催：キルトアート工房	12/20～12/25	展示資料館

＊ コスモスウィーク [10/18～11/8]
＊ 紅葉ウィーク [11/22～12/7]

＊ 秋バラウィーク [10/25～11/16]
＊ クリスマスフェア [11/22～12/25]

Event Information 2025 10-12

植物公園で開催されるイベントを紹介します

10 月

草笛体験会

10月5日（日）午後1時～3時

みどりとむし講座（先着100名程度） 「アサギマダラ観察会」

10月13日（月祝）午前11時～正午

秋の山野草実演会（先着50名程度）

10月19日（日）午後1時半～2時半

* イベントの内容は、一部変更になる場合があります。
最新情報はホームページ・電話等でご確認ください。

11 月

洋ラン実演会（先着50名程度）

11月2日（日）午後1時半～2時半

コスモスのお花摘み（先着200名）

11月9日（日）午前10時～正午

絵本の読み聞かせ

11月16日（日）10時半～、11時半～

寒蘭実演会（先着50名程度）

11月16日（日）午後1時半～2時半

- * 毎週土・日曜日・祝日 午後1時半～3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内しています
- * 11月9日 午後1時20分～3時は、植物友の会例会を実施します（要入会、年会費無料）

職員による植物うんちく語り （10月～12月の予定）

“見ごろの植物・展示会”のとおきの話を1時間程度、職員が熱く語ります。各回午前11時から、集合場所は展示資料館です。

10月4日	土	被爆80年特別企画展「被爆樹木」解説	座学（定員100名程度）
10月21日	火	サボテン・多肉植物 解説	座学（定員100名程度）
11月1日	土	秋の草花解説	現地（定員40名程度）
11月25日	火	晩秋の植物観察	現地（定員40名程度）
12月7日	日	クリスマス飾るフラワー展 解説	現地（定員40名程度）
12月23日	火	冬の温室散策	現地（定員40名程度）

年間予定
はこちら



◇募集◇

※往復ハガキに催し名・住所・氏名・電話番号（・希望日）を記入してお申込みください。
植物公園のホームページ（Web申込のQRコード）からもお申込みいただけます

催し名・日程	内容等	定員	締切	Web申込
きのこ観察会 11月2日（日）①午前10時半～正午 ②午後1時半～3時	園内のきのこの観察を行います。	各回 15名 （抽選）	10月9日 【必着】	
クリスマスリース作り講習会 11月15日（土）午後1時半～3時	クリスマスに玄関や室内を飾る壁掛けを制作します。 <u>材料費：2,000円</u>	30名 （抽選）	10月22日 【必着】	
冬のガーデニング講座 11月22日（土）午後1時半～3時半	正月の玄関にも飾れる初冬のハンギングバスケットを作ります。 <u>参加費：3,800円</u>	20名 （抽選）	10月29日 【必着】	

コスモスと呼ばれる花 The flowers called "Cosmos"



コスモス



マーガレットコスモス



ウインターコスモス

〇〇コスモスとして流通していますが、右の2つはコスモスの仲間ではありません。マーガレットコスモス（ユリオプス属）は、南アフリカ原産でユリオプスデージーの近縁種。ウインターコスモス（ビデンス属）は、アメリカ大陸原産で「ひつつきもつつき」で知られるセンダングサの近縁種です。

秋の洋ラン展 Autumn orchid exhibition



展示風景（会場：展示温室）



テーマ展示



ブラッシア ヒビヤ スター'ブラックマジック'



カトレヤ マキシマ



セラトスティリス ルブラ



オンシジューム メイフェア'トリニティ'

植物公園では、洋ランの栽培に力を入れており、毎年春と秋に洋ランの展示会を開催しています。秋の洋ラン展では、コレクション展示のほか、2つの愛好団体（広島洋蘭倶楽部、日本・蘭協会西中国支部）からの出品も多数あり、秋咲きのカトレヤなど多様な洋ランを一度に観賞できます。また、会期中（10/25～11/3）は洋ランの販売や育て方の相談にも随時対応する予定です。

10月～12月に見ごろを迎える植物



夏～秋

サルビア スプレンドENS
(カスケード)



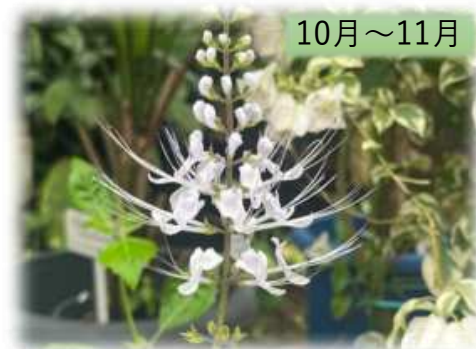
10月

キンモクセイ
(カスケードほか)



10月頃

ダリア
(ログガーデン)



10月～11月

ネコノヒゲ
(大温室)



11月中下旬

桃色イペー
(大温室)



10月

マユハケオモト
(サポテン温室)



12月～3月

ラケナリア
(サポテン温室)



10月下旬～11月中旬

バラ レッドラジアンズ
(バラ園)



10月中下旬

ソナレマツムシソウ
(ロックガーデン)



10月頃

キバナアキギリ
(里山の野草園)



10月下旬～11月

キクタニギク
(里山の野草園)



12月～1月

サザンカ
(ツバキ園)

ようやく暑さも一段落し、秋の草花が咲き始めました。これからの時期、コスモスや秋バラ、紅葉など、各月の見どころが目白押しです。今年初開催のアート展示（写真やビジュアルアート、キルトワークなど）も企画しており、話題に事欠かない秋となりそうです。お見逃しなく！ [写真・文：久保 晴盛]

Plant Doctor Q&A

植物公園では、緑の相談窓口を設置しています。
家庭園芸のお困りごと、何でもご相談ください。
〔☎082-922-3600 金曜を除く午後1時～4時〕

Q. ベゴニアの葉挿しとはどのようなふやし方ですか？

A. 葉挿しは一枚の葉から新しい株をふやす方法で、主に根茎性ベゴニアの繁殖方法として知られています。一部の木立性ベゴニアや球根性ベゴニアでも葉挿しによる繁殖が可能です。葉柄を付けたまま葉を利用する「葉柄挿し」、葉脈を中心に扇状に切り分けて葉を利用する「葉片挿し」などの方法があります。葉挿しに向く品種と向かない品種がありますが、親株をほとんど傷めることなく株をふやすことができるのでおすすめの繁殖方法です。

「葉柄挿し」は葉の大きさに応じて、葉柄を1～5cmほど葉に付けて切り取り、用土に挿す方法です。葉は未熟なものや、傷んだものではなく、ある程度成熟した元気のよいものを利用します。「葉片挿し」は葉柄を取り除き、一枚の葉をそのまま用土に挿す方法で、葉の大きな種類では、葉脈を中心にくさび形に切り取って用土に挿すこともできます。こちらも、ある程度成熟した元気のよい葉を利用します。

どちらも、用土はバーミキュライトや、パーライト、鹿沼土などを単用するか混合して使用します。葉挿し後の管理は、多湿で明るい日陰に置き、用土を完全に乾かさないように注意します。1～1.5か月ほどで発芽し、2～3か月ほどで鉢上げすることができるようになります。

〔写真・文 田中 宏昌〕

Q. 夏の終わりにハウレンソウの種子を播いたのですがほとんど発芽しませんでした。どうしてでしょうか。

A. 植物の種子には、発芽に適した温度帯がそれぞれにあり、温度が高すぎたり低すぎたりすると発芽が抑制されることがあります。ハウレンソウでは、気温が30℃以上になると大きく発芽率が低下しますので、今回は種子を播いた時期の気温が高すぎて発芽が抑制された可能性が考えられます。

夏の終わりにハウレンソウの種子を播く場合、夏まき品種を選ぶこととあわせて、一時的に遮光をするなど、地温上昇を防ぐことが必要です。あるいは、播くのを気温が下がる時期まで待つことをおすすめします。

〔文 山本 晃弘〕

Q. ワスレナグサを種から育てたいです。種まきや育て方のコツを教えてください。

A. 種を播く時期は、9月中下旬から10月初旬が適期です。種を播く土壌は清潔で新しく、肥料分の無いバーミキュライトや種まき用土などがおすすめです。まずはセルトレイなどに用土を敷き、種子を播く前にじょうろなどで土を湿らせます。その後に1マスに2～3カ所ほど割りばしなどで浅くくぼみを作り、その中に播種して軽く土をかぶせます。土を湿らせ、くぼみを作ることで種子の流出を防ぐことができます。発芽までは土を乾かさないように注意し、発芽後は日向に移し、週に1回、活力剤と液体肥料を与えます。本葉が3, 4枚になったタイミングで茎のしっかりした芽を選んでポットに移植し、本葉が6, 7枚の時に日当たりと水はけの良い場所に定植します。比較的寒さには強いですが、敷き藁をすると安心です。

〔文 中原 祥之〕

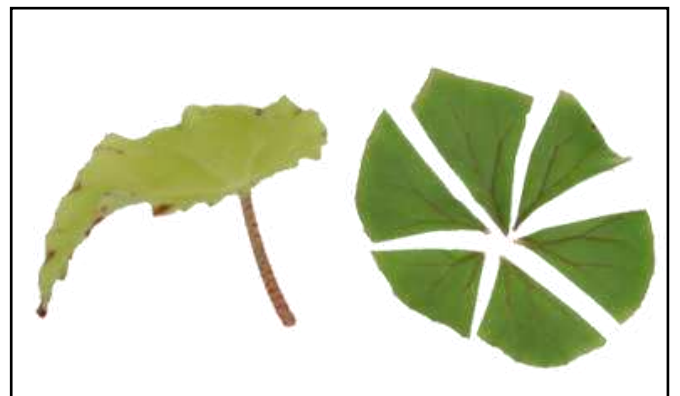


写真 ベゴニアの葉柄挿し（左）と葉片挿し（右）



写真 ワスレナグサの花

葉牡丹

変化朝顔や桜草のような江戸時代から伝わる園芸植物の栽培・展示を担当した時、伝統園芸植物には自らが栽培しその成長過程や季節変化を観察して初めてわかる面白みがあると感じました。最近、葉牡丹を栽培するようになり、独特の面白みを感じて、改めてこれが江戸時代に日本人が作り出した園芸植物であることを思い出した次第です。今回、私が「葉牡丹」に感じた面白ポイントを写真を交えて3つご紹介します。

1つ目は、葉牡丹にはたくさんの品種があり品種ごとに双葉の形、本葉の形が違い、葉脈や葉軸の色も赤紫や緑などの変化があるので、種から育てると芽生えを観察しながらどのような姿に成長するか想像する楽しみがあることです（図1）。2つ目は、多くの植物が秋から冬にかけて休眠してしまうのに、葉牡丹はこの期間に成長し、葉数を増やして花のような姿になることです（図2）。葉牡丹は1778年に日本に伝えられたケールから品種改良されたものだと言われていますが、当時の人々もこの特徴を面白く感じ、その姿を「牡丹」に例えました。そして寒さに当たると葉の緑が無くなり白くなる個体や赤紫色の色素が濃くなる個体などを選抜して、お正月飾り定番の園芸植物としました。3つ目は、ヒヨドリが葉牡丹の緑色が残った部分ばかりを選び好みして食べたことです。2024年から2025年にかけての冬はヒヨドリによる葉牡丹の食害が酷かったのですが、白や赤紫に色づいた部分はかじられず、面白く感じたのでご紹介します（図3）。

今年は葉牡丹を種子から育ててみませんか？

[写真・文 井上 尚子]



図1 いろいろな品種の葉牡丹の芽生え



図2 秋から春先までの葉牡丹を含む寄せ植えの変化（冬も成長し、寒さで葉色に変化する）



図3 葉牡丹に留まるヒヨドリ（上）
緑の葉をかじられた葉牡丹（下）



広島市佐伯区倉重三丁目495

☎ 082-922-3600 📠 FAX 082-923-6100

■開園時間 午前9時～午後4時半（入園は4時まで） ■休園日 毎週金曜日
■入園料 大人510円、高校生および65歳以上170円、中学生以下無料
■駐車料 軽・普通自動車450円、中・大型車1,400円

